

中期的な財政運営に関する検討会 論点整理のポイント

I 基本的な考え方

～正直を第一として慎重な経済見通しを前提に～

国民は、政府が雇用や社会保障等、国民の安全網（セーフティネット）を確保することをより一層求めている。政府がその役割を果たしていくためには、財政健全化は不可欠であり、これが人々の将来への不安を解消し、経済成長への足がかりともなる。

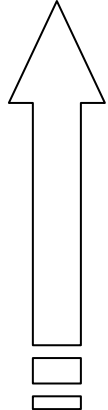
財政再建プランは、慎重な経済見通しを前提とする。正直を第一とし、国の会計間の資金移転や赤字の付け替え等に依存した財政運営を行うことは厳に慎む。また、財政ルールへの強い遵守姿勢（コミットメント）を確保すると共に、景気変動に対する柔軟性の仕組みもルールの中に織り込む。

II 財政運営戦略のイメージ

～収支（フロー）と残高（ストック）の両方の目標を設定～

<財政健全化目標>

例えば下記のような段階的な目標を設定。中長期の財政健全化目標は、国のみならず国・地方を対象とする。

	目標／中間目標（例）	達成目標時期
	④公的債務残高の対GDP比を安定的に縮減させる。（ストック目標） ＝所要のプライマリー・バランス黒字を達成。（フロー目標）	〇〇年度
	③プライマリー・バランスの均衡を達成。	〇〇年度
	②プライマリー・バランス赤字（対GDP比 or 金額）を半減。	〇〇年度
	①2011～13年度の3年間において、後述のような中期財政フレームを設定。	（2013年度）

（注）フロー目標については、プライマリー・バランスに代えて財政収支を用いることも考えられる。（例えばEUは財政収支赤字の対GDP比▲3%以内が基準。）

<財政運営ルール>

財政健全化目標を確実に達成するため、以下のような財政運営ルールを組み合わせていくことが考えられる。

- ① 政治主導・トップダウン型の新たな予算編成方式
- ② ペイアズユーゴー原則：恒久的な歳出増又は減税は、恒久的な歳出削減又は歳入確保により、見合いの財源を確保。
- ③ 財政赤字（又は構造的財政赤字）縮減ルール：目標達成に向けた期間中、財政赤字（又は景気循環要因を除いた「構造的財政赤字」）を一定割合改善。

Ⅲ 中期財政フレームのイメージ

～歳出の大枠について拘束力を持ち、枠内の配分には弾力性を～

中期財政フレームは、向こう3年間（当初は平成23～25年度）の歳出の大枠について拘束力を持ち、これに沿って各年度の具体的な概算要求及び予算編成を行うものとする。

マクロの総枠の拘束力と、ミクロの配分の弾力性の融合が重要。最低限、「ペイアズユーゴー」の原則を採り入れ、社会保障を含む政策的経費についての恒久的な歳出増は、恒久的な歳出削減又は税制措置によって賄うといったことを検討すべき。

歯止めのない国債発行額増加の抑制へ向けた、政府の強いコミットメントを示すべきである。

Ⅳ その他

国民に必要な公共サービスを確保していくため、可能な限りの歳出改革に加え、税制の抜本改革を実現していくための本格的な議論を進めるべき。

財政健全化は国民共通の、長期間にわたる課題であり、党派を超えた取組が行われることが望まれる。

以 上